

Children's healthy growth and development as supported by early childhood education curriculum in Sweden

WATANABE Kanae

Abstract

Through an analysis of the Swedish early-childhood education (ECE) curriculum and a comparison with the Japanese curriculum, we clarified the commonalities and differences between the Swedish and Japanese approaches and obtained useful knowledge for preschools facing issues of globalization. Swedish ECE's basic principles are understanding democratic values and respecting independence and diversity. Those principles are realized through holistic, daily practices in each preschool. Commonalities between Swedish and Japanese ECE approaches include the nurture of non-cognitive skills that are required to gain study skills (cognitive skills) after entering primary school. A significant difference between Swedish and Japanese ECE is as follows. In Sweden, children are not treated in a "childish" way. Children are expected to sound and independent Swedish nation. Compared to Swedish ECE, Japanese ECE is emotional. It develops Japanese children's kindness and consideration for others' feelings. However, Japanese children fail to nurture the ability to state their opinion and discuss it with others theoretically and objectively.

子どもの健やかな発育発達を支援する スウェーデンの幼児教育カリキュラム

渡 部 か な え

1. 緒言

スウェーデンの幼児教育が準拠しているのはプレスクール・カリキュラム：Läroplan för förskolan - Lpfö 98である¹⁾。スウェーデンは世界に先駆けて幼保一元化を実現しており、どのプレスクールでも Lpfö 98 を共通の教育プラットフォームとして就学前教育（スウェーデンでは幼児教育を就学前教育と位置付けている）が行われている。

スウェーデンの就学前教育カリキュラムの冒頭には「民主主義がプレスクールの基盤を形成する」と記載されており、これがプレスクールでの教育の基本理念となっている。また、日本の幼稚園教育要領²⁾・保育所保育指針³⁾・認定こども園教育保育要領は⁴⁾、「健康」、「人間関係」、「環境」、「言葉」、「表現」という項目に分かれており、それぞれについてねらいと内容が規定されているが、スウェーデンの Lpfö 98 でねらい及び内容に相当する Goal and Guidelines は「規範と価値観」、「成長と学習」、「子どもの影響」で、民主主義の理解、民主主義にのっとった自己実現、他者の尊重、民主主義の実現のため、そして民主主義社会の一員として子ども達も責任を担うことを学んでいく。

スウェーデンの就学前教育カリキュラムは日本のように項目が細分化されていない。これは心身の健やかな育ちに関することは個別・単独で学習させるべきことではなく、「holistic view（全人的な観点）と子ども達のニーズに基づき、ケアと社会性を身につけさせる。学習は、それら全てが首尾一貫としたものとなるよう計画し実施されるべきである」というポリシーに基づいている。また、基本理念や到達目標、指導の大きな枠組みは記載されているが、それを日々の保育の中でどう実践するのかは、各就学前教育機関に全面的に任されており、子どもの多様なニーズに応えながら現場（就学前学校の教員：日本では幼稚園教諭・保育士）の判断を尊重し現場の裁量で就学前教育を行うことができるハード・ソフトの両方の仕組みが整えられている。

本研究は、子どもの幸福度が高い⁵⁾ スウェーデンの就学前教育カリキュラムを検証し、日本の幼児教育・保育カリキュラムとの共通点や相違点を明らかにして、グローバル化が進む日本の幼稚園や保育所などでの保育の今後の参考になる知見を得ることを目的として行った。なお、以後、幼児教育に関する記述は、スウェーデンについて述べる際には就学前教育、日本の場合は幼児教育・保育、両国に関わる場合は幼児教育と書き分ける。

2. スウェーデンの就学前教育の概観

- ・コミュニケーション能力、学習能力、協調できる能力は社会において不可欠である（中略）。プレスクールは、社会で生きる全ての人が必要とする共通の枠組みを構成する知識と技術子ども達が将来、獲得できる基礎を提供する。
- ・子ども達は、遊び、社会的な相互作用、探究、観察、議論、省察を通し

て知識を得、発達させていく。

- ・子どもは大人からの刺激や手引きで言語能力を高めながら、自身の活動を通して新しい知識や洞察を得ていく。
- ・言語と学習は不可分で、言語と子どものアイデンティティの形成・発達も不可分である。
- ・外国文化のバックグラウンドを持っている子どもに対しては、母国語とスウェーデン語の両方を学べる機会を提供せねばならない（スウェーデン語のみを強制してはならない）。

3. スウェーデンの就学前教育の基本理念

スウェーデン社会が共有している民主主義的価値観の理解と受容が基本理念の第一にあげられている。教育活動は子どもの学習と発達を刺激し、子ども達が自ら挑戦していくように支援すると述べられている。そして、遊び・創造・学習の楽しさを促し、新しい経験・知識・技能を学ぶことへの子どもの興味を高め強化する、となっている。さらに、子どもが自分自身や身近な周囲の世界を理解することに貢献し、子どもの経験・興味・要求・意見に基づいて、学習への探究心・好奇心・意欲を形成する、子ども達から湧き出してくる考えやアイデアを、学習に多様性をもたらすよう用いることが就学前教育の基本理念として定められている。

4. スウェーデンの就学前教育カリキュラムの到達目標 (Goal and Guidelines)

スウェーデンの就学前教育カリキュラムは全人的な観点（holistic view）から作成されているので、心身の健やかな育ちに関する到達目標

は「規範と価値観」、「成長と学習」、「子どもの影響」それぞれに記載がある。それらをピックアップしてまとめたのが以下である。

(1) 健やかな育ちの支援に関する到達目標

- ・ 他人の状況を考慮し共感する能力や他人を援助する力
- ・ 道徳的な葛藤や日常生活の疑問について、自分の立場を明らかにし、考え、解決する能力（葛藤を処理し、権利と義務を理解し、約束に責任を持つことを、個人的にも集団の中でも実践できる能力）
- ・ 全ての人が、性別、社会的、民族的背景に関わらず、同等の価値を有していることの理解
- ・ 命の尊厳と環境保護、自我の発達と安心感、自尊感情と自己肯定感、好奇心と喜び、遊びと学習の能力
- ・ 自国の文化へのアイデンティティの確立と、他の文化への共感と尊重、話し、聞き、振り返り、自分の考えを表現する
- ・ 運動技能、調整力、身体認識、健康の維持増進
- ・ 概念の微妙な違いの区別、相互関連、周囲の世界の理解、新しい方法の発見
- ・ 豊かな言語能力と他者とのコミュニケーション能力、自己表現
- ・ 自分自身の行為と保育園の環境に対する責任を持つ能力
- ・ 民主主義の原則にのっとって理解し行動する能力

図1・図2は、冬の間ずっと雪が降っているスウェーデンでは、氷点下でも、子ども達が自主的に外で友達と元気に外で遊んでいる姿である。石や木、雪など自然にあるものを活用して、自分達で遊びを創り出している。

図3・4はランチの様子で、子ども達はランチルームに集まり、用意された献立（オーガニック食材で園の調理室で手作りしている）から、食べ



図1 外遊び①



図2 外遊び②

たい量・食べられる量を自分でよそって食べる。この日のメニューは、全粒粉のパンケーキ、森で摘んだベリーで作った園の自家製ジャム、キュウリ、キャベツ、トマトなどの野菜、スクランブル・エッグ、脱脂チーズ、具だくさんのポタージュ・スープ、牛乳であった。



図3 ランチ①



図4 ランチ②

ポタージュ・スープは先生がよそってくれるが、その他は子どもが自分で取り分ける。

日本の幼児教育・保育カリキュラムと、健やかな育ちの支援について大きく異なるのは、スウェーデンでは、子どもを、いわゆる「子ども扱い」することなく、スウェーデン国民の一人として、健全で自立した人間であることを期待してる。

(2) コミュニケーションと言葉

健やかな育ちの支援にコミュニケーションは重要である。特に言語コミ

コミュニケーションの基盤となる「言葉」については、スウェーデンと日本の幼児教育ではかなりコンセプトが異なる。移民を多く受け入れており、プレスクールにもいろいろな民族の子どもがいるスウェーデンの就学前教育カリキュラムの「言葉の教育」の Goal and Guideline は、グローバル化の波が幼稚園や保育所にも押し寄せている日本にとって参考になると思われる。

- ・子ども達の聞く力、省察する力、自分自身の考えを述べる力、先を見通す力を育てる。
- ・子ども達の、話し言葉、語彙、概念、考えを述べること、質問すること、議論をすること、他者とコミュニケーションすることを育てる。
- ・書かれた言葉に興味関心を持つ、記号を理解しそれがコミュニケーションに果たす役割を理解する力を育てる。
- ・絵や写真、文字、その他の異なる文化メディアに興味関心を持ち、それらを使えるようになり、それらを解釈し、それらについて話す力を育てる。
- ・科学について、識別する力、探究する力、記述する力、質問し、言及する力を育てる。
- ・スウェーデン語以外に母国語で、子ども達が自分たちのアイデンティティを育み、スウェーデン語だけでなく母国語でコミュニケーションができるように支援する。

幼児教育には、その国の文化が反映されていると同時に、その子ども達が将来、幸せな人生を送り、周囲の人達を幸せにできる人になるには、このような力をつけてほしいという願いが込められている。日本の幼児教育・保育カリキュラムはかなり情緒的であり、それが日本人の相手の心に

寄り添える優しさを育てている。一方、スウェーデンの就学前教育では、幼い時からアイデンティティを明確に持ち、自分の意見を理論的・客観的に述べ、他者と冷静に議論する力を育てている。

5. スウェーデンと日本の幼児教育カリキュラム

日本では、2018年4月に新しい幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領が施行された。今回の改訂の最大の変更点は、保育内容の5領域「健康」、「人間関係」、「環境」、「言葉」、「表現」を相互に関連させながら、10の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（10の姿）を育んでいく、と新たに記載されたことである。

10の姿とは、「健康な心と体」、「自立心」、「協同性」、「道徳性・規範意識の芽生え」、「社会生活との関わり」、「思考力の芽生え」、「自然との関わり・生命尊重」、「数量・図形、文字等への関心・感覚」、「言葉による伝えあい」、「豊かな感性と表現」で、これまでも保育の現場では行われてきたことであるが、「10の姿の育ち」として幼稚園教育要領等に明記されたことによって、幼児教育・保育とその後の教育のつながりが見える化され、幼児教育・保育から義務教育、高等教育までを展望できるようになった。10の姿の育ちは、幼児期を豊かにするだけでなく、小学校以降から高校までの学習を成り立たせ、さらに大学教育や社会教育につながっていく、生涯に渡る教育の土台になるということが示された。

幼児期に豊かな遊びの体験を通して育まれた10の姿は、「生きる力」と「学びに向かう態度」になる。園で十分に遊んで過ごすことが、元気な体と心と頭を育て、生涯に渡って学び続け発展し続けることができる豊かで充実した人生に繋がる。

幼児教育で育むべきこれらの力や態度は、国際的には非認知スキル（OECD は社会情動的スキル⁶⁾と表記）の用語が用いられている。ノーベル経済学賞を受賞したヘックマン教授は、幼児期に非認知スキルを育むことが生涯に渡って健康で幸福な人生を送ることに繋がると述べている⁷⁾。スウェーデンも日本も、就学後の学習（認知スキルの獲得）の基礎となる非認知スキルを幼児教育で育むことによって、生涯に渡る健やかな育ちの基盤をつくる支援を行っていくという点が共通していることが、カリキュラムから読み取ることができた。

しかし、理念の具体的な実践では、スウェーデンと日本は異なっている。日本の幼児教育・保育も素晴らしいが、スウェーデンに比べると少し情緒に偏りすぎている。優しさと思いやりにあふれる良さを大切にしながら、もう少し、自分の意見を理論的・客観的に述べる力、他者と冷静に議論や交渉をする力（「お願い」だけでなく）、独自性を育てる（みんなと同じでなくていい、アイデンティティを確立させ、自分のアイデンティティも、自分とは異なる他者のアイデンティティも尊重する）という視点を、今後は日本の幼児教育・保育の到達目標（めあてと内容）に取り入れていく必要があると思われる。

謝辞

この研究は、JSPS 科研費 18K02462 の助成を受けたものです。また、スウェーデンの就学前教育の観察調査およびデータ収集に協力してくださったスウェーデンのプレ・スクールの先生方に感謝いたします。

参考文献

- 1) Sverige Utbildningsdepartementet Läroplan för förskolan (Lpfö98) Fritzers, 2019

- 2) 文部科学省、幼稚園教育要領、19p, 2017
- 3) 厚生労働省、保育所保育指針、61p, 2017.
- 4) 内閣府、認定こども園教育保育要領、28p, 2014.
- 5) ユニセフ、先進国における子どもの幸福度、イノチェンティ研究所・阿部彩・竹沢純子（2013）
『イノチェンティレポートカード11 先進国における子どもの幸福度—日本との比較 特別編集版』、
公益財団法人 日本ユニセフ協会（東京）
- 6) OECD, Skills for social progress: The power of social and emotional skills, 2015.
- 7) Heckman J.J., Skill formation and the economics of investing in disadvantaged children, Science, 30; 312 (5782): 1900-1902, 2006.